

令和5年度旭川未来会議2030 環境分野 第2回分野別会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年7月3日(月) 午後6時30分から午後8時30分まで
- 2 開催場所 旭川市総合庁舎議会棟 第3委員会室(旭川市6条通9丁目)
- 3 出席者(参加者) ※敬称略, 五十音順
近藤 貴彦, 設楽 照久, 難波 和枝, 花田 徳康, 濱本 祐愛乃, 原口 真梨子, 吉田 小夏
- 4 出席者(市側)
(運営事務局)
環境総務課 安富環境総務課ゼロカーボンシティ担当課長, 宮田主査, 増田主査, 齋藤
(統括事務局)
広報広聴課 乙坂広聴係主査
- 5 会議の公開・非公開 公開
- 6 傍聴者 なし
- 7 意見交換
※進行役: 花田 徳康 氏
議題「ゼロカーボンシティ旭川の実現に向けた再エネ・省エネ施策」
※前回の会議でアイデア出し及びジャンルごとに仕分けした。
※今回の会議では, ジャンルごとの担当者によるプレゼンテーションを行った。
(プレゼンテーションの概要)
<木質バイオマス>
 - ・ 木は適切にメンテナンスしないと太くならないし, 炭素固定量も伸びない。
 - ・ 家庭用ペレットストーブ, 事業用の薪やチップの需要を確保し, 林地残材などの未利用エネルギーも使っていくことで, 山の価値を向上や木の地産地消につなげ, ひいては適切な森林管理につなげたい。
 - ・ そのためにも公共施設が率先して木の利用(木質バイオマスボイラー導入など)を進めると良い。
 - ・ 旭山動物園内で剪定した樹木の枝や伐採した木, 市内の休耕地で栽培されたジャイアントミスカンサスを原料としたペレット(木質燃料)を製造し, 園内の暖房に活用する事業を進めているところ。
 - ・ 近隣の好事例として木質バイオマスボイラー, 壁面型太陽光発電, CLT(直交集成板)を活用した環境配慮型郵便局が当麻町にある。

<雪活用>

- ・ 雪氷熱を活用した設備の導入を進める。
札幌市内：モエレ沼公園，札幌駅北口広場など，
美唄市内：J A，データセンターなどで稼働実績あり
- ・ 雪の保存方法（倉庫，野積）やごみなどの不純物対策が必要。
- ・ 野積の場合，木質チップで保温している例も見られるので，森林対策にも寄与すると考える。

<節電>

- ・ 節電について，諸外国と比べて日本はマイナス面のイメージが強い。発想の転換を行った上で，行動変容につなげる必要がある。
- ・ まずは家庭や事業所等におけるCO₂排出量の見える化を進めることが大事だと考える（国立環境研究所，道庁でアプリ等を開発している）。
- ・ 省エネに関する取組等の実践効果を一覧化して紹介することで意識改革につなげ，省エネ設備等の導入（行動変容，照明，高効率機器など）や再エネ設備等の導入（太陽光パネルの共同購入，PPA，リバースオークションなど）につなげる。

<省エネ>

- ・ 現在，電気をつくる・ためるには補助制度が充実している。今後，電気をつかうところに着目した補助制度（エコキュートなど）を新設したらどうか。
- ・ 公用車を活用したEVカーシェアリング事業を導入したらどうか。

<CO₂吸収>

- ・ 現在，実証実験が行われているCO₂を吸収する自動販売機を設置・運用したらどうか。

<普及啓発>

- ・ 省エネの日やゼロカーボンデーをつくり，機運を高めていきたい。
- ・ 植樹イベントを継続して実施して市民の森をつくり，CO₂吸収源を増やす。
- ・ エネルギー使用量やCO₂排出量の増減の可視化・周知。
- ・ バスの利用などのエコ移動の推進。
- ・ 子ども向けに出前講座を実施し，旭川のエネルギーについて知ってもらう機会をつくりたい。
- ・ 大人向けには環境に配慮した家などの社会見学を実施し，旭川のエネルギーについて知ってもらう。

※ 次回の会議では，これまでの内容をもとに，報告会で使用するスライドを作成し，取りまとめに向けて議論を深めていくこととした。